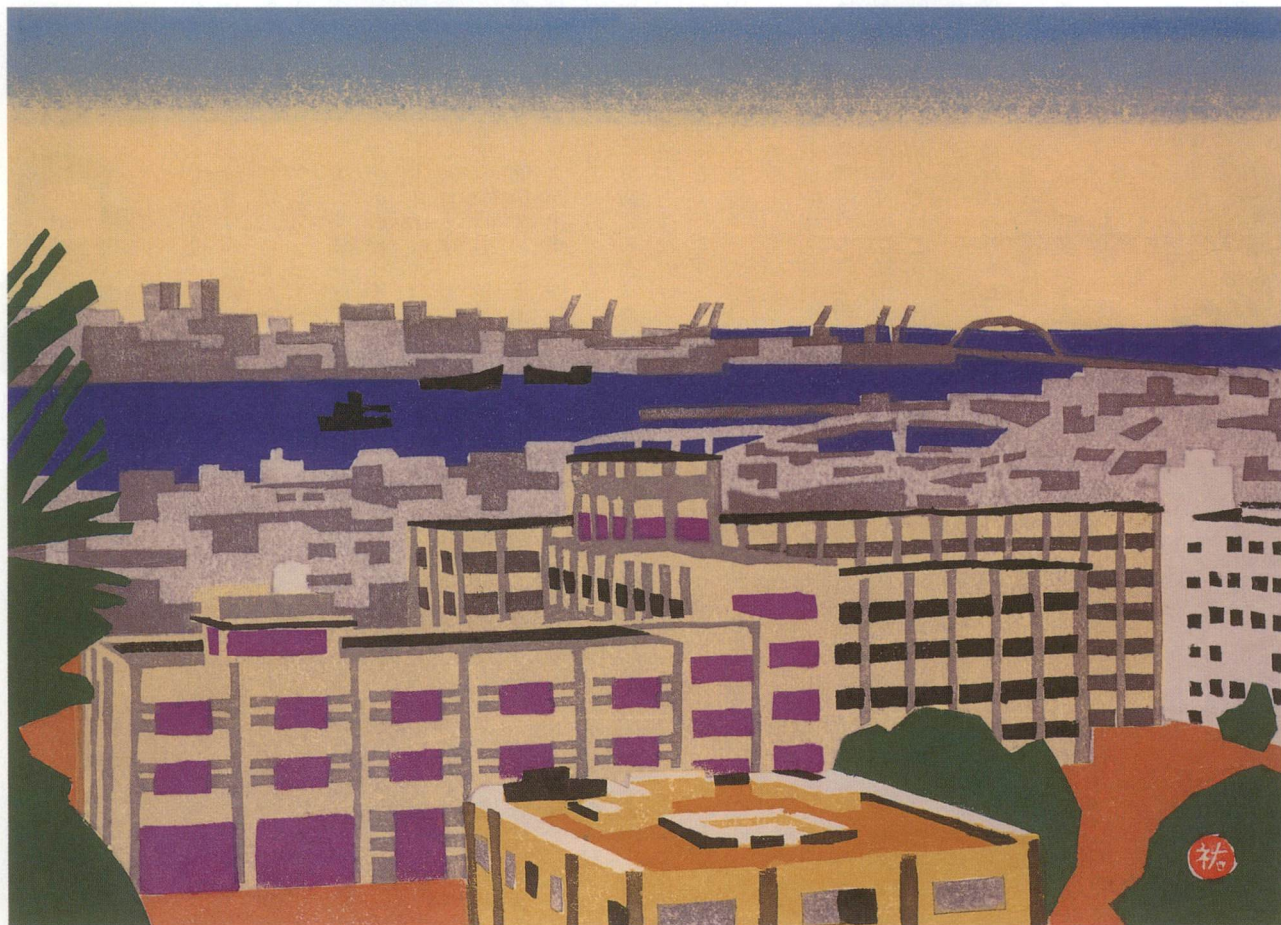


六篠会報

No.21

発行／神戸市灘区六甲台町1 神戸大学農学部内 りく そう かい 六篠会 (神戸大学農学部同窓会)
連絡用FAX : 078-881-2752 E-mail : rikusou@kobe-u.ac.jp



川西祐三郎作「神戸大学全十八景・農学部」

CONTENTS

| | |
|------------------------------|---------------------------------------|
| 「大学との新しい関係!」 北浦 義久.....2 | ⑥学友会だより 王子 善清9 |
| 「農学部近況報告」 中村 千春.....2 | 六篠会からのお知らせ「ホームカミングデイの開催」 中村 直彦 ...10 |
| 同窓生は今 ①上林 良之3 | 研究室紹介 ①応用動物学科 感染症制御学教育研究分野 清水 晃 11 |
| ②吉田 幸二4 | ②食糧生産工学科 生産機械学研究分野 堀尾 尚志12 |
| ③淡野 一郎4 | ③生物機能化学科 植物資源利用化学教育研究分野 杉本 幸裕12 |
| 最新研究情報 | ④植物資源学科 果樹科学教育研究分野 中西 テツ13 |
| RNA新大陸とカビの生える学問 中屋敷 均5 | ⑤生物環境制御学科 熱帯植物学教育研究分野 伊藤 一幸14 |
| 代議員総会報告 中村 直彦6 | ⑥生物環境制御学科 生態環境応答学教育研究分野 大野 清春14 |
| 支部だより ①KOBEL六篠会 大窪 道明7 | 庶務報告15 |
| ②県六篠会 相野 公孝7 | 17年度決算16 |
| ③関東支部 多田 泊二8 | 18年度予算16 |
| ④東海支部 長谷川信弘8 | 同窓会事務局の案内16 |
| ⑤延喜会 新家 龍9 | 編集後記16 |

大学との新しい関係！

六篠会会長 北浦 義久



六篠会員の皆さん、お元氣ですか。各地域、各分野において、ご活躍のことと心からお喜び申し上げます。

皆様方に支えられて、この5年間六篠会会長として活動させていただきましたが、これからも、力一杯やらせていただきます！と心を新たにしています。引き続き会員の皆様方の温かいご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

六篠会では、今主な活動として会報の発行（年1回）や名簿の発行（4年に1回）のほか、講演会等の学術活動、六甲祭等の学生活動、卒業記念祝賀会の開催への支援、さらに、学舎周辺の植樹・環境整備といった大学運営等に対して協力しています。また、全学的な学友会やKUCなどの活動にも積極的に参加し、他学部との交流を図っております。また、神戸六篠会、県六篠会、関東支部（東京木曜会）、東海支部など、それぞれの職域や地域での活動に対しても支援をし、総会や懇親会の開催を通じて、同窓生の交流を深めると共に親睦を図って頂いております。まだ支部

結成に至っていない地域や地域においても是非支部を結成していただければと願っています。具体的な動きがありません。具体的なお知らせがありましたら本部へご一報下さい。積極的に対応させていただきます。今後とも同窓生の新しい和を作り上げていきたいと願っております。

大学と同窓生との連携をいっそう深めることを目的とした「神戸大学ホームカミングデー」が、9月30日に開催され、全学部で300名あまりの同窓生が集い、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。また、野上学長から神戸大学の現状と将来について、特に国立大学法人となった神戸大学の置かれている状況や発展的な将来構想等詳しく報告されました。急激に変化する社会状況や変貌を遂げつつある母校の姿に接し、同窓生と大学の新しい関係が求められていると痛感しています。大学の考え方や卒業生の考え方とは、必ずしも一致するものではありませんが、その中でこれまでと違った関係を構築していかなければならないのではないかと思います。今

後大学、学生、卒業生の連携がますます重要になってきますが、その一翼を我々六篠会が担うようになるでしょう。

一方、平成18度から農学部学舎の改修工事が民間活力を活用したPFI方式で行われております。もうすでに研究室の一時引越しが終わつたと聞いております。エントランスが出来、開放的な建物となるようです。明るく未来を象徴するような研究・教育施設と生まれかわることを期待しています。このように、今、母校神戸大学は大きく変わろうとしています。われわれ同窓生も神戸大学の将来への飛躍に大きな期待を寄せ、大学の発展に微力ながら支援を続けていこうではありませんか。

最後になりましたが、会員の皆さんのご健勝、ご多幸と、限りなくご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とします。



農学部近況報告

農学部長 中村 千春



中秋を過ぎ、日一日と秋の色が深まって参りました。六篠会会員の皆様にはますますご清祥のことと存じます。

まず、念願の農学部学舎改修工事がE棟（研究棟）を手始めに開始されたことを報告致します。7月以来の移転作業は予想以上の難事でした。学生諸君と教職員は、現在、農学部A、D、F棟の他、自然科学研究科1、2、3号館、理学部、国際文化学部に分散し種々の不便に耐えています。講義、学生実験と卒論、修論、Dr論研究など学生諸君の勉学・研究環境の確保が私達に科せられた最大の課題です。今後も多くは作業が残っていますが、教職員が一丸となつて協力し、平成19年11月には新農学部学舎の落成を迎えたいと思います。

次は、研究科の改組についてです。神戸大学農学部は、昭和24年に多紀郡篠山町に創設された兵庫県立農科大学を前身とし、昭和42年の国立移管で六甲台に学舎を構えました。創立以来57年間、幾多の再編改組を経してきましたが、昨年度までの卒業生・修了者

の累計は、学部と大学院を含めて約8,000名に達しています。農学は、人間の「生命と生活」を支える基幹産業としての農業、食品産業を科学的に支える伝統的な学問領域です。一方、農学の範疇は急速に拡大しており、食料・食品生産から、環境問題、地域社会の活性化や健康、食の安全安心など生産者・消費者を含むシステム全体を視野に入れ、新たな社会的ニーズに応える組織への変革が求められています。こうした基本認識に基づき、平成19年度には、現大学院自然科学研究科を改組し、「食料・環境・健康生命」に関わる諸問題の解決をめざした大学院農学研究科が発足します。改組の眼目は、個別分野の専門性を深化させつつ、学際性・総合性を重視した大学院農学教育研究体系の再構築です。

添付図のとおり、大学院農学研究科は、3専攻（食料共生システム学、資源生命科学、生命機能科学）6講座（生産環境工学、食料環境経済学、応用動物学、応用植物学、応用生命化学、環境生物学）

体制となり、見通しの良いMD一貫の大学院教育体系が完成します。内容の充実が今後の課題です。農学研究科から世界をリードする研究成果が生まれ、新たな農学領域を切り開く人材が育つことを切望します。

国際学術交流と地域連携の分野でも前進が見られました。文部科学省の「戦略的国際連携教育支援プログラム」は2年次を迎え、本年度はフィリピン大学ロスバニオス校（UPLB）と国際イネ研究所（IRRI）へ学生諸君を送ることが出来ました（熱帯農学海外演習）。11月4日には、ノンラム学長、ハノイ農科大学長ほかを迎えたベトナム・日本学生研究交流会（VJSE06）主催のバイテクワークショップが、15日には、神戸大学が主催する東アジアウイーク行事の一環として、中国農業大学副学長、ソウル大学農学部長、UPLB農学部長、国立感染症研究所副所長ほかを迎えた「東アジア地域の食の安全安心科学に資する国際フォーラム」と題したシンポジウムを農学部が共催しま

す。
食資源教育研究センターの「神戸大学ブランド商品」も順調です。「神戸大学ビール」、「神戸大学のちよっと変わったジャガイモ」、「ターザン(タマネギ)」、「藤稔(ブドウ)」などいづれも好評を博しています。兵庫県立農林水産技術総合センターで育種された酒米品種「杜氏の夢」を食資源教育研究センターで栽培し、加西市の酒造会社「福久錦」が醸造した日本酒「神戸の香」は本年2月に世に出て、1、500本を発売しました。本年度は栽培面積の拡大と良好な作柄から、6、400本の新酒ができる予定です。

同窓会関連のニュースを加えます。神戸大学は、毎年9月の最終土曜日に、卒業後55、45、35、25年を経た同窓の皆様を招いたホームカミングデーを開催することになり、本年は去る9月30日に挙行されました。百年記念館での全学式典の後、農学部では、北浦六篠会会長と農学部発祥の地である篠山市稲川助役のご臨席を得て、56名を超える同窓、退官教員の皆様が集いました。C101教室での農学部現状報告に続いて、「神戸大学ビール」と、最後までとつておいした「神戸の香」がピロティの食膳に並んだ懇親会は、同窓の皆様と農学部在学、教職員の親睦を深めるよい機会となりました。来年も同窓の皆様にも母校農学部の姿を見て頂きたくご案内をさせていただきますので、今から楽しみにお待ちください。

神戸大学大学院農学研究科
(平成19年4月設置予定)
神戸大学農学部
Graduate School of Agricultural Science
Faculty of Agriculture, Kobe University

食の安全安心科学センター
地域連携センター

食料共生システム学 専攻
環境保全
食料生産
資源生命科学 専攻
健康生命
生命機能科学 専攻
遺伝子実験センター
自然科学系 先端融合研究課

最後になりましたが、六篠会会員の皆様のご健勝を祈り申し上げますとともに、農学部、大学院農学研究科へのよ

同窓生は今

兵庫県立農業大学校

校長 上林 良之(神Z一回)



私は神戸大学農学部畜産学科を卒業して36年になります。入学時は農科大学の先輩は篠山で学んでおり、農学部学舎は建設中でありました。2年目の秋に移転が完了し学部の先生や先輩を訪ねることができ農学部へ入学した実感が湧いたことを思い出しています。

9月30日に神戸大学ホームカミングデイに参加し久しぶりに農学部キャンパスをゆつくりと見学しました。建設時に植えられた木は小さく周辺は裸地が目立つ構内でしたが、木も随分大きくなり重みを感じるとともに施設が整い学部の充実をうかがいうれしく思いました。1970年前後は

愛好都合なことがありました。黒岡の飲み屋「おっさん」の前川さんにはとりわけお世話になりました。大手食堂の支払いは盆と暮の年2回下宿ではその家の家庭教師もどきの生活をしていました。先輩方の学生生活が如何様であったかよくわかりました。篠山で3年勤務したが新米の農業改良普及員として農家を始め多くの人にお世話になり感謝しています。仕事は畜産担当として主として肉用牛、酪農に関わる技術、経営指導を担当しました。その後、明石、北淡路、神戸、南淡路、佐用、加西の農業改良普及センターに勤務しました。農業改良普及員(六篠会員32名在職)の仕事は農業生産現場で農家の立場に立ち、農業技術や、経営改善の指導を通じて農家と共に喜びを分かち合う仕事であります。また試験研究成果を生産現場に普及させる重要な役割を担っています。日本の農家の技術が世界のトップクラスであることは研究、教育、普及の一貫した組織により技術移転がスムーズに行われている証左であります。この仕事に大変満足していましたが、平成14年思いもよらず兵庫県立農業大学校へ転勤となり今日に至っております。

21世紀の成熟社会は農の時代といわれています。この時代を担う農業を志す青年の指導に責任の重さを痛感しています。農業大学校は加西市の兵庫県立農林水産技術総合センター内にあり2年制で全寮制です。学習と生産と生活を一体的に行うところに特色があります。農家、非農家、農業高校、普通高校、大学卒業生など多様な若者が入学してきます。彼らに対して実践的な農業技術を習得させ担い手として養成することが農業大学校の目的です。したがって授業は講義と実習がそれぞれ50%ずつであります。講師は職員のほか主として農林水産技術総合センターの研究員(六篠会員24名在職)が行っており、農学部を退官された保田先生、高橋先生にも講義をお願いしています。私も「農政時事」を講義するとともに時間があれば実習授業を手伝うよう心掛けています。学生と一緒に額に汗をかき実習をしながらの話は楽しいものです。農業の先行きについて様々な議論がされているなか農業を志す彼らにしっかりと応えたいと思っています。多様で異質な学生のキーワードは「農業をしたい」であります。ところがすべて就農できない学生ではなく、就農できない学生には農業についての知識と技術を備えた農業理解者、農業

支援者としての活躍を期待しています。本校は平成17年専修学校として認可を受け、更に勉強意欲のある学生は農学部へ編入の道が開かれました。神戸大学農学部への編入学生が早く出現することを願っています。

今年の7月に保坂先生のご配慮により食資源教育センターで馬鈴薯の掘取り実習に参加することができました。農学部学生と農業大学生の交流のきっかけになればと思います。本校では農業を行う上で必要な資格（トラクター運転免許、フォークリフト、溶接、農業機械士、家畜人工授精士等）が取得できます。将来農

業の現場での活躍を望んでいる農学部学生は農業大学校で資格を取得はどうでしょうか。今日の農学の研究分野は細分化、深化しています。ところがその研究成果を農業技術として組み立て実践する若い担い手が強く望まれています。農業大学校はそうした人材育成のため欠くことのできない教育機関であります。団塊世代の最後の踏ん張りで見えつつある魅力ある農業大学校運営と学生指導に当たりたく思っています。

神戸大学農学部の発展と六條会会員皆様方の益々のご健康を念じ粗稿といたします。

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所

研究管理監 吉田 幸一（神戸2回）



1971年に神戸大学農学部第2回生として卒業し、35年が経過しました。現在とは少し組織が変わっていますが、当時の植物防疫学科植物病理学教室に所属し、同期の高橋、中尾（旧性鈴垣）の同級生とともに過ごしました。第1回生が6名で、なおかつ

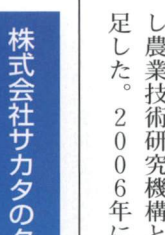
個性豊かな方ばかりで圧倒されていたのを覚えています。大学3年生になった頃に、大学紛争が活発になり、農学部では10ヶ月にわたるストライキに入るなど、そのような活動に積極的でなかった私も否応なしにそのただ中に巻き込まれてしまいました。大学3年生といえば、専門過程に入

り、土壌消毒、抵抗性台木、輪作等の現地実証試験を行ったのが一番印象に残ります。それ以降、ウリ類、マメ科作物等の分類同定に取り組みました。当時、所属研究室では、世界的に例のない弱毒ウイルスを用いたトマトのタバコモザイクウイルスによるモザイク病防除研究が実施されており、その影響もありキューウリモザイクウイルス（CMV）の弱毒化にサテライトRNAが利用できることを明らかにし、弱毒ウイルスを利用した防除法開発に取り組みました。やはり研究室の持つ伝統は有形無形でもパワーを与えるものだと感じた次第です。

1990年に果樹試験場盛岡支場、2002年に果樹研究所本所に異動になりました。果樹研究所では、果樹病害の難防除病害に係わる研究に取り組む、リンゴのウイロイド、リンゴ根頭がんしゅ病菌の遺伝子診断法の開発するともに、農業環境技術研究所や岡山県立大等との共同研究で、菌類ウイルスを利用した果樹類紋羽病防除法の開発の取り組みができました。2005年にはWTO交渉で問題となっていた米国産りんごの火傷病に係わる検疫措置が改正となったことに加え、物流及び人の活動が国際的に加速化されている現状から、我が国への侵入

リスクが危惧される火傷病や、地球温暖化に伴い、西南諸島を北上中で九州本土に上陸が危惧されるカンキツグリーニング病など、日本あるいは日本本土に侵入した場合に果樹産業に壊滅的な影響を与える重要病害に係わる病害虫について、行政部局と連携を取りながら、研究に関わっています。また、現在の職場では、化学農薬の使用を最小限に抑えるべく、拮抗微生物、情報化学物質・天敵利用等を利用した環境に優しい果樹病害虫防除技術開発研究の推進に取り組んでいます。得られる結果が、直接に生産者の方々の生活、消費者の方々には食の安全・信頼確保に係わる事柄が多く、身の引き締まる思いがします。

2001年に私の所属する果樹研究所は独立行政法人化し農業技術研究機構として発足した。2006年には独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構となり、国家公務員としての身分のある国研・特定独立行政法人から非公務員型の非特定独立行政法人となりました。それに伴い、組織体制も従来の縦割りの部・研究室制から大きく様変わりして、研究チーム制という研究の目標を明確にした研究分野横断型の体制がとられるようになりました。研究資金も競争的研究資金等獲得による充実化、産学官連携、協力の促進・強化、海外機関及び国際機関等との連携の促進・強化が求められるとともに、得られた成果については国民にわかりやすいかたちで情報提供を行う必要があります。このことを胸に刻み、美しい国土・豊かな環境と潤いのある国民生活の実現に向けて、研究推進に取り組んでいきたいと思えます。



株式会社サカタのタネ 広報宣伝課長 淡野 一郎（神修18回）

「プリンスメロン」「アンデスメロン」あるいは「ピーター

「コーン」の会社といえれば社名を知らなくてもわかっていただけるのではないだろうか。私の勤めるサカタのタネは、世界19カ国に35拠点を置く、1913年創業の花と野菜の種苗会社である。花ではパン

ジー、トルコギキョウなどが、野菜ではブロッコリーが世界シェアナンバーワンで、穀物を含まない種苗業の順位で世界第4位である。

91年に修士課程を修了し、入社してすぐの私の仕事は、花の品種育成だった。いわゆる「ブリーダー」と呼ばれる職業で、作物育種学研究室に所属していた私にとって、まさに天職であった。

勤務地は、長野県三郷村（現安曇野市）にあり、背後に北アルプス、目の前は美ヶ原を望む山並みと一面のリンゴ畑、盆地の底には松本の町並み、信州安曇野の広い畑が私のフィールドだった。高冷地の盆地特有の厳しい夏の暑さや冬の寒さのなか、担当のヒマワリ、アスター、プリムラなど延べ9品目の花の品種育成に精を出した。ここで約11年のブリーダー人生を過ごし、

固定種を中心とした登録品種14品種といくつかのF1品種を育成した。職務育成のため一からの品種育成が難しい民間会社の育成において、世界最小クラスのヒマワリ「小夏」など、いくつかを一から自分で育成できたことは幸せであった。

そんな私に5年前、社内で立ち上がったばかりの広報宣伝部への異動の話が来た。広報宣伝活動のためには技術的

な話ができる人間が必要との理由で、以来、横浜市にある本社において現在の仕事に就いている。

さて、その広報宣伝について少し触れたい。「広報」とは、ニュースとなる情報を企業が媒体（マスコミ）に提供し、媒体の責任で記事や放送の形で報道してもらう活動をいう。一方、「広告」は、企業が料金を支払って新聞の紙面や放送の時間を買って自分の責任で表現することをいう。広報の場合、媒体の記者という第三者によって記事化されることから信頼性と印象が明らかに高く、広告よりも費用対効果が高い。

具体的には、広報はプレスリリースの作成と配信、記者会見・イベントの企画運営、新聞雑誌のクリッピング、社内報の制作など、広告は広告・販促物の企画・制作などの業務からなる。当社ではさらにブランド管理、マーケティングブランドナーといった仕事まで含め幅広く行っている。

ところで、現在、食品以外の農業分野に携わる多くの企業の商取引は、商品を生産者に対して販売するいわゆる企業間取引（B2B）が中心である。種苗業界も、典型的なB2B業界である。つまり種苗という製品とその販売についてのコンセプトは意識して

も、最終の成果物（青果や生花など）は生産者任せで自分たちでは扱わないため、企業対消費者間取引（B2C）に基づいた一般消費者へのマーケティングコンセプトは希薄になりがちなのである。その結果、この分野のコミュニケーション戦略は、いまだに生産者に対する業界紙誌を中心にした広告が中心である。

しかし、農業分野を取り巻く環境は大きく変わりつつある。食の安心・安全、食育、スローライフといった一般消費者のこの分野への関心の高まり、異業種の参入による流通チャネルの変化、今年3月の農水省農村振興局長の通達による非生産者の余剰収穫物の販売許可など、B2Cに基づいた一般消費者へ訴求するためのマーケティングコンセプトを追求する必要が生じてきている。

これらのことから、一般消費者も含めたターゲットへ、一層の経費削減と効果的な訴求のため、当社では特に広報活動に力を入れている。わが国の農業分野における広報に對する意識はまだ低い。

その理由は、上述したマーケティングコンセプトの欠如に加え、的確な情報を媒体へ訴求できないことも大きな原因と感じている。その中で技術経験者が広報業務を担う意義

は大きい。ニュースは新鮮なほど価値が高い。そのため媒体は素早い対応を求める。その場で、多くを語れる技術者は、まさに広報向きなのだ。くわえて理数系ならではのデータによる客観的な説明は、理解しやすく記事化されやすい。また、社会のトレンドを捉えられるようになれば、話題の創出など積極的な広報もできる。例えば03年6月に毎日新聞へ訴求した「ミニ&ベビー野菜」は、その後多くの媒体で扱われ大きな反響を呼び、04年2月から共同通信社へ自ら寄稿し、神戸新聞はじめ延べ25の地方紙に22か月連載された「作っておいしいペランダ菜園」は、野菜のコンテナ栽培というジャンルに目を当てた。

さらに、コモディティ（日用品）化したパンジーを救ったタカラ（現タカラトミー）とのコラボレーションによるパンジー「虹色スマイルwith [oca]」のブランド化も、広報業務で得られた社会のニーズやシーズを商品作りに活かす起案実行したことによる。戦後の高度成長による二



次・三次産業中心の社会のなかで、一次産業にまつわる話はあまり聞かなくなってしまう。しかし、本来それは、生きていくために最低限必要で、最も身近なはずである。

我々の遺伝子に刻み込まれた農業というノスタルジックなアーヘン一人でも多くの人がいざなうべく、花や野菜を通してこれからも活動していきたいと考えている。

最新研究情報

RNA新大陸とカビの生える学問

植物病理学助教授

中屋敷 均



「カビの生えたような学問」という言葉があるが、私がやっているのは「カビの生える学問」である。私の研究はイネに病気を起こすいもち病菌（Magnaporthe oryzae）を材料にしているが、この菌は子のう菌という糸状菌（カビ）に属している。カビの生えたような学問というと、薄暗い研究室で白衣を着た学者が顕微鏡をのぞいているというようなイメージがあるが、「カビの生える学問」も、まあ、似たり寄ったりという所だろうか。ところで、今年のノーベル医学生理学賞は、米スタンフォード大のアンドルー・ファイアー博士と米マサチューセ

と考えられていた。しかし、ヒトゲノムの解読から分かったことは、約30億のヒトゲノムDNA配列のうち、蛋白質になる領域というのは、わずかその1〜2%に過ぎないということであった。すなわちこの生命科学からするとヒトゲノムの98%以上の領域は、無駄であるという結論になる。昨年、この不可解な状況に、理化学研究所の日本人研究者達が一筋の光を投じた。それはヒトと同じほ乳類であるマウスでは、やはりゲノムのほとんどが蛋白質にならない領域であるが、ゲノム半分以上の領域は、RNAにまでは転写されていることが明らかになったのである。すなわち、蛋白質を作るためにRNAが作られるという図式ではなく、ゲノム情報の多くがRNAになることに意義があり、蛋白質にまで翻訳されるのはそのごく一部という新しい生命科学の学観が提示された。これはマスコミにより「RNA新大陸の発見」と比喩された。この蛋白質にならない多量のRNA達が実際に何をしているのか、現在「RNA干渉」のようにな少数の例を除いてほとんど未知であると言っている。しかし、ゲノム情報の多くがRNAとして機能を持つ可能性が示された意義は、生命科学の歴史に残る発見と言えよう。



こんなとてもカビが生えそうにもない新しいピカピカの課題に、私はカビを生やして取り組もうとしている。カビはぜひぶん下等な生物と思われているかも知れないが、我々ヒトと同じ真核生物であり、今年ノーベル賞を取った「RNA干渉」機構もきちんと保持している。現在、この「RNA干渉」を使って、いもち病菌の遺伝子機能を探ることを試みており、低環境負荷型の防除法の開発や糸状菌を使った物質生産、難分解性物質の処理などの応用につなげることを目指している。また、一方、カビは生育が哺乳類に比べると格段に早く、実験材料として取り扱い易いメリットがあるため、いもち病菌を使って「RNA新大陸」の開拓者となるべく、日々いろんな空想を描いている。空想につき合う学生さんは大変だが、

農学部に必要な学理の探求とその応用を両立できればと考えている。末筆となったが、現在、神戸大学農学部はPFI事業による学舎改修の真っ最中である。同窓生の方々が過ごされた懐かしい学舎は現在取り壊されつつあり、新しい学舎が、来年4月から再来年にかけて建つ予定である。しかし、紹

介するのもお恥ずかしい話であるが、現在のPFI事業の予算が極めて逼迫しており、安普請という言葉にも満たないような計画となってしまう。今後、神戸大学農学部に通うこととなる後輩達が胸を張って通える学舎となるよう、何卒同窓生諸氏のご協力を賜ればと願ひ、この拙文を結びたい。

代議員総会報告

野上学長から「同窓生との連携・基金の創設」を提案

代表理事 中村 直彦(神戸1回)

平成18年5月20日(土)、午後3時から神戸・元町の本館牡丹園において、六條会の代議員総会を行いました。これは、同窓生全員に呼びかけて行う4年に一度に開く総会以外の年に行い、役員と代議員により六條会の活動及び予算・決算について審議するものです。

このたびの代議員総会には、大学から野上学長、真山副学長(社会連携本部長、中村農学部部長、松本社会連携課長、植村社会連携課長補佐をお招きしました。まず、北浦会長の挨拶のあと、野上学長より来賓祝辞を

- ① 第1号議案 六條会役員の選任について
- ② 第2号議案 平成17年度六條会事業報告並びに収支決算の承認について
- ③ 第3号議案 平成18年度六條会事業計画(案)並びに収支予算(案)の承認について
- ④ その他

はじめに、議長を選出を行い、昭和39年卒、12回生で農学科の坂井永利さんに議長をお願いしました。まず、第1号議案については、六條会副会長として県六條会からの推薦のあった吉倉惇一郎(兵C16)さんが定年退職したことに伴い、その後任として同県六條会の会長に就任していただくことになりました。また、第2号議案の平成17年度事業実績については、①六條会総会をはじめ理事会の開催、②教員・学生の学術活動に対する援助、③六甲祭、マラソン、卒業記念パーティなど学生生活動に対する援助、④会報及び名簿



の発行、⑤同窓会の支部活動に対する援助などの活動を実施しました。ただし、4年毎に発行している名簿については、個人情報保護法の施行に伴い、理事会で慎重に審議するほか、所定の手続きを経る必要があったため、発行が必要以上に遅れました。次いで、第3号議案の平成18年度事業計画(案)については、例年どおりで大きな変更点のない内容となりました。以上、事務局からの説明を行い、原案どおり可決・承認されました。(詳細は後述)

最後に皆さんにお願いがございます。同窓生の皆さんは、兵庫農科大学あるいは神戸大学農学部において研鑽を積まれ、その精神を長年にわたって実践されてこられました。食糧難の続く戦後間もない昭和24年に兵庫県立農科大学



(昭和27年に兵庫農科大学と改名)として誕生し(神戸大学も同じ年に開設、経済復興から経済成長、その後バブルの崩壊といった経験を経て、今や国内では少子高齢化、国際社会においてはグローバル化の新しい時代に入っています。

今日では、個人々々を尊重する一方、個人々々の協力関係を基礎とする成熟した社会をどのように築いていくかということが大きな課題となっています。このことを考えるとき、大学と連携していくことや同窓生間での互助ということ、ますます重要になってまいります。そういった意味で、これからも大学や同窓会に深いご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

支部

だより

KOBE六篠会

大窪 道明(修29回)

KOBE六篠会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在は、会員122名(現職会員79名、OB会員38名、名誉会員5名)を数えています。

会員の採用区分は教職、農業、化学、衛生監視(農芸化学、畜産)から一般行政まで幅広く、また勤務先も小・中学校(教員)、環境局(廃棄物や環境保全に関わる仕事)、保健所や区役所(食品衛生・環境衛生・動物衛生に関わる仕事)、産業振興局(農・水産・畜産業の農政振興に関わる仕事)、建設局(道路、下水道、公園などの土木関係の仕事)、水道局(水質検査などの仕事)のほか、フルーツフラワーパークや六甲山牧場、海釣り公園……など多岐にわたっており、安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員一丸となって取り組んでいます。

私は平成16年に農業職で採用

され、産業振興局の西農政事務所に配属されました(現在西農政事務所は北農政事務所と統合され、農業振興センターとして新たに生まれ変わっています)。農業振興センターでは農作物に関する様々な仕事をしていますが、私が初めて受け持った仕事は家畜に関することです。今まで経験したことが無い分野であったため私には毎日が驚きの連続

| 役職名 | 氏名 | 卒年・回生 | 所属(勤務先) |
|-----|-------|-----------|----------------------|
| 会長 | 菅原 通直 | 48年・神C4回 | 環境局 環境保全指導課 |
| 副会長 | 中尾 博行 | 46年・神P2回 | (財)神戸みのりの公社 海浜事業部 |
| 〃 | 牛若 純一 | 48年・神C4回 | 保健福祉局 西衛生監視事務所 |
| 〃 | 橋本 宏之 | 51年・神Z7回 | 保健福祉局 健康部 生活衛生課 |
| 幹事 | 森川 功一 | 55年・神C11回 | 保健福祉局 北衛生監視事務所 |
| 〃 | 八木 正博 | 56年・神C12回 | 保健福祉局 環境保健研究所 |
| 〃 | 長澤 秀起 | 57年・神A13回 | 産業振興局 中央卸売市場本場 |
| 〃 | 藤井 俊宏 | 58年・神C14回 | 保健福祉局 健康部 生活衛生課 |
| 〃 | 鈴木 壽也 | 59年・神P15回 | 産業振興局 中央卸売市場東部市場 |
| 〃 | 松宮 道生 | 60年・神A16回 | みたと総局 技術本部 工務第2課 |
| 〃 | 景山 敏一 | 2年・神T21回 | 建設局 下水道河川部 河川課 |
| 〃 | 長浜 慶治 | 2年・神T21回 | 都市計画総局 計画部 工務課 |
| 〃 | 岡野 光世 | 3年・神A22回 | 産業振興局 農業振興センター |
| 〃 | 為国 司 | 5年・神C23回 | 環境局 事業系ごみ対策課 |
| 〃 | 角村 朝葉 | 9年・神A28回 | 神戸市農業委員会 |
| 監事 | 高谷 信之 | 52年・神A8回 | 産業振興局 農政計画課 |
| 〃 | 渋谷 一郎 | 52年・神C8回 | 保健福祉局 健康部 生活衛生課 |
| 〃 | 平井 朗 | 52年・神C8回 | クリーン神戸リサイクル(株) 環境保全部 |



でした。一番驚いたのは牛の大きさでした。そのため初めは少し怖かったのを覚えてい

農政の最近のキーワードは地産地消です。神戸市では様々な特徴のある農作物が生産され、直売所などで販売されています。皆様も見掛けられませんか。皆様の声を聞いていただければ幸いです。今年も記念すべき第20回総会・懇親会の年に当たるといふことですので、できるだけ若いメンバーの結集も図っていきたく思います。

や六篠会会長等のご出席をいただき、大学の近況を伺ったり、思い出話に花を咲かせたり、会員間の情報交換を進めたりと親睦を深める良い機会となっております。今年も記念すべき第20回総会・懇親会の年に当たるといふことですので、できるだけ若いメンバーの結集も図っていきたく思います。

県六篠会近況報告

相野 公孝(神P12回)

例年10月に行っております総会を、本年度は6月に明石で開催されました。また、昨年の総会で確認されました新会員歓迎会、神戸の酒を飲む会を総会後に引き続き行いました。総会におきましては、神戸大学理事 眞山滋志先生、農学部長 中村千春先生、北浦義久会長に御出席いただき、眞山先生からは神戸大学の今後、中村先生からは農学部の現状のご紹介がありました。

また、眞山先生が県科学賞、中村先生が井植賞を受賞され、記念品が贈られたことが報告されました。新役員として会長に塩飽 是雄氏が選出され、新副会長、新役員が承認されました。総会に引き続き、新会員歓迎会・神戸の酒を飲む会が開催されました。本年度



を大学の付属食資源教育研究センターで栽培し、地元の酒造メーカーが生産したお酒「神戸大学ブランド「神戸の香」の味と香りを堪能しました。とはいえ、「神戸の香」は非常に人気があり、本年度はもうほとんど残りがありません。蔵元に無理をお願いし用意をしていただきました。真山先生から、ラベルの絵や文字のお話や来年度は増産する計画

平成十八年度六條会

関東支部の活動状況について

支部長 多田 泊二(兵Z13回)

関東支部では、関東支部の総会と、凌霄会主催による木曜会の年2回のイベントを行っております。

総会は9月8日に凌霄会クラブに於いて北浦会長出席のもとに24名の参加者により開催されました。ここ数年は30名あまりの参加者ですが、今回は新規参加者が7名おられ来年に向けて新たな希望がもてる会でありました。会は北浦会長の挨拶に始まり、会計報告・講演会そして懇親会と約3時間にわたり終始和やかに同窓の仲間と懇親を深めることができました。恒例となりました卒業生による講演は、昭和40年の卒業で元国立感染

などの報告がありました。このように楽しい時間をすごすことができ、アツと言う間に終了時間となつてしまいました。

なお、新たな会長、副会長は次のとおりです。

- 会長 塩飽 是雄(神1A)
- 副会長 上林 良之(神1Z)
- 河野 哲(新1P)
- 島原 作夫(神2A)
- 武 正興(神3C)

症研究所の山田堅一郎氏にお願いし、「21世紀の感染症—ウイルス感染と人の関わり—」と題して講演をいただきました。

山田氏は兵庫農科大学卒業後、北海道大学大学院に進まれ、国立予防研究所(現感染症研究所)ではウイルス学を研究してこられました。ウイルスは感染力が強く、人に感染した場合は大流行し、致死率も高く、その対策が待たれています。講演は、ウイルスの構造、そして突然変異の部位に始まり、世界的見地からのウイルスの叢生分布等の紹介がありました。具体例としてはSRS、鳥インフルエンザウイルス、ウェストナイ

ル熱、デング熱、日本脳炎、加えてプリオン等です。特に鳥インフルエンザウイルスは今冬話題になりましたが、治療薬が無いとのこと、感染しないよう留意することが必要と思われまます。

木曜会は7月27日に凌霄クラブに於いて開催され、昭和38年兵庫農科大学の卒業で、現在畿央大学健康科学部教授で京都市立名譽教授の森友彦氏に講演をお願いし、「食品開

発と新しいニーズへの対応—食べ物と健康の新しい関係の時代—」と題して講演をいただきました。森氏は、兵庫農科大学卒業後、京都市立大学大学院に進学し、京都大学食料科学研究所の教授を経て現在に至っております。講演では、食べ物の一時的機能(栄養性)、二次機能(嗜好性)、三次機能(保健性)の3つの機能についての説明やまた、新しい分野として、テクスチャー(食感)を科学的に解明する手段を検討しているとの報告がありました。

食についてはテレビ番組「みのもんだ」が種々の野菜、果物を取り上げ、栄養学的見地からその有用性を紹介するなど好評を博しているようですが、一般家庭では栄養学に対する関心が高まっており、また、団塊の世代の高齢化を迎えている中、栄養学研究の一層の活躍を期待して

おります。

関東地区近辺に在住の会員は約800名おられますが、役員一同趣向を凝らしながら、農学部との多岐に亘るテーマを取り上げ皆様の参加をお待ちしております。奮ってイベントへご参加くださるようお願い申し上げます。

い致します。

尚、永年六條会関東支部の幹事として活躍いただいたおりました水田勲氏が8月27日に永眠されました。本誌上をおかりしましてご報告申し上げます。故人のご冥福をお祈り申し上げます。

東海支部

支部長 長谷川信弘(兵C16回)

東海支部は、H13年9月に発足し、初代支部長はS29年卒の正井さんが就任され、第1・2回の総会は半田市で行いました。第3回は、S33年卒の谷口さんのお世話になり、三重県湯ノ山温泉で1泊の総会を行いました。H16年の第4回総会では、S33年卒の上田さんが第2代支部長に選任され、第4・5・6回総会は、神戸大学名誉教授・土田先生のお世話になり、名古屋ガーデンパレスで開催されました。

研究の現状なり、先生方の活躍を知る機会を得る事にしました。この様にして、これまで5回の講演会を実施しましたが、参加者は、各回30名程度で、まだまだ十分とは言えません。これからも更なる工夫が必要かと思えます。

東海支部に登録される卒業生は、200名を超えており、全員が参加しての同窓会として、活動しようと考えました。ただ集まっただけの同窓会では、つまらないと考え、そこで、東海支部の活動としましては、年1回の総会を開催しておりますが、その時に、兵庫農科大学・神戸大学に関係する先生方の講演を頂き、

先月末の9月30日(土)には、神戸大学において、第1回ホームカミングデイが開催され、その時の神戸大学長・野上智行先生のお話によると、米国の大学は米国に移民してきた市民が、自分たちの子供を教育する為に設立したもので、出身校に対しては、強い愛着心を持っており、卒業後も、出身校の各種運営に携わっている様です。

さて、東海支部に振り返って見ますと、東海地方に働く、あるいは居住する卒業生が、兵庫農科大・神戸大学卒業と言う横の連携を深め、情報を共有し、皆様の仕事・業務に役立たせて頂ければ幸いです。話を少し戻しますが、最近の農芸化学会の大会の発表を見てみますと、食物による健康維持・医食同源、健康食品・特定保健薬、発ガン抑制、あるいは環境問題、地球温暖化防止のエネルギー対策が脚光を浴びています。

昭和の世代の我々にとつては、従来の農学部の範囲が拡大している様に思います。時代は先に進んでいる様です。時代の最先端の技術を知るには、学会や講演会に出席する事が必要ですが、研究部門にいれば、それも可能ですが、知るチャンスは少ないと思います。



東海支部で、その一端でも担う事ができればと考えています。

その様な場所として、六篠会東海支部を発展させたいと考えています。

今後共、会員の皆様方と一緒に考え、活動して、東海支部を育てて行きたく、宜しくお願ひします。

平成18年度東海支部役員

支部長 長谷川信弘(昭43農製)

副支部長 谷口 正昭(昭33生化)

副支部長 上田 洋(昭33生化)

会 計 北川 治(昭45生化)

事務局長兼任

会計監査 前川 文男(昭36農製)

幹 事 正源寺正義(昭36生化)

幹 事 西浦 隆司(昭37農製)

幹 事 神田 豊(昭44植栄)

幹 事 小原 章裕(昭62院養)

幹 事 武井 真理(平3食化)

重陽の節句(延喜会)

六篠会顧問 新家 龍(兵C5回)

去る8月27日から9月2日まで中国広州の旅に参加することが出来て、桂林の絶景をはじめ中国南部の農村地域の現状を具に見ることが出来ました。特に、農村地帯で栽培された農産物が日本に輸入され、その残留農薬が問題になっていることを思いながら車窓から眺めておりました。一方、中国は目下驚くべき勢いで発展しておりますが、観光地の見学するところは、やはり古い歴史的遺産や遺跡が多く、伝統と歴史の重みに圧倒されることしきりでした。タイトル「重陽の節句」とは、

中国から伝えられた五節句の一つで陰暦の9月9日に当たり、日本では「桃の節句」(3月3日)と共に「菊の節句」としても親しまれている節句の一つです。さて、古くから伝えられている「酒道」の中に、日本酒の飲み方について、「重陽の節句」から「桃の節句」までは「爛をして呑むのが良い」とされています。時あたかもその時期に入ろうとしており、出来れば家庭内で、落ち着いた雰囲気です。中国旅行中は、関東料理、四川料理とその田舎料理など

が出されましたが、それぞれに特徴があり、また酒類としてはビール、紹興酒などがありました。紹興酒は爛がしてあり日本酒の感覚で賞味することができました。

延喜会は、酒類業界に關係のある卒業生を中心に古く発足した同窓会で六篠会支部の一つです。従って、現在卒業生は現役を既に退職した人から現役で活躍中の入、新卒業生に至るまで幅広い会員からなっています。原則として、年に一回は日頃の成果を研究発表したり、見学会等を開いて会員相互の研鑽と情報交換に努めています。また、その活躍している地域は日本のみならず世界各地にまたがっており、将来益々の発展が期待されることです。現在、日本では飲酒運転による事故、特に公務員の事故が毎日のように報じられていますが「一寸の不注意一生の事故」の認識を新たにする必要があります。「百葉の長」である日本酒を賞味しながら、健全で楽しい一生を送りたいものです。六篠会員の皆様のご多幸を祈りあげます。

学友会だより

学友会担当理事 王子 善清(兵C12回)

神戸大学には現在、11学部・9研究科のOB・OGからなる10同窓会があります。「神戸大学学友会」は、これらの同窓会の連合体です。各同窓会の会員が相集い、同窓会相互の交流と親睦を図るとともに、神戸大学の公的行事について協議したり参加したりして、母校の発展に寄与しています。年

2回学長、副学長をお招きして定期幹事会を開催するほか、必要に応じてその都度、臨時幹事会を開いていきます。本年より、学友会の運営をスムーズに行うため、学友会幹事会の下に各同窓会委員一名からなる小委員会を設置しました(小委員会委員は表の通り)。小委員会では、大学と学友会(な

「神戸大学 学友会だより」を読もう!

「神戸大学 学友会だより」が1月1回、メールで定期送信されます。学友会kobe-u.com委員会、学友会東京支部、学友会大阪クラブ、KUCの発行で、メールアドレスを連絡すれば、どなたでも受信できます。もちろん無料。あなたもどうぞ!

「神戸大学 学友会だより」は平成18年2月現在で75号。同窓の動きを紹介する「トピックス」や神戸大学の動きをお知らせする「大学ほっとニュース」、さらに「近日行われるイベント」など情報が満載です。「大学ほっとニュース」は神戸大学の公認課外活動団体「神戸大学ニュースネット委員会」からの提供です。

また、全卒業生が利用できるKUC神戸大学学友会クラブの案内もあります。同窓のネットワークを取り結ぶものとしてご利用ください。

受信にはメールアドレスtokyo@kobe-u.comへ申し込んでください。

らびに各同窓会)との間での、新入学生や卒業生の個人情報提供に関する覚書の締結に向けて協議を重ねています。年末には学友会幹事会で最終決定される見通しです。

学友会編集委員会よりのお願ひ

神戸大学では年2回、受験生や一般社会人向けの広報誌「Kobe University Style」を発行しています。編集委員会は、学友会や同窓会の活動、トピックス、先輩登場などの記事内容や写真等の編集業務を分担しています。先輩登場の欄では、異色(?)に卒業生に大学の広報担当者が向いてインタビューを行いそれを記事にしています。ぜひ、六篠会員で適任者をご存知の方は六篠会事務局まで一報下さい。

推薦下さい。異色の卒業生を。六篠会事務局まで。

学友会幹事会小委員会委員

- 委員長 難波 昭
- 文窓会 安部 栄治
- 翔鶴会 加藤源太郎
- 紫陽会 高田 嘉英
- 凌霄会 堀 功郎
- くさの会 高木 恕司
- 神緑会 菱田 繁
- 就進会 白川 卓
- 工学振興会 池野 誓男
- 六篠会 王子 善清
- 海事科学部同窓会 井上篤次郎

会員制クラブのご案内

神戸大学学友会は昭和58年に学友会専用クラブとして「神戸大学クラブ」を神戸に開設しました。大阪と東京にも「神戸大学学友会大阪クラブ/大阪凌霄クラブ」「神戸大学東京凌霄クラブ」があります。全学部卒業生だけでなく、教職員、学生の皆さんもお気軽にご利用ください。

| | |
|----|--|
| 神戸 | 神戸大学クラブ (Kobe University Club=KUC) 〒650-0022 神戸市中央区元町通1-11-20 本館牡丹園内 TEL&FAX078-334-1323 URL:http://home.kobe-u.com/kobe/ |
| 大阪 | 神戸大学学友会大阪クラブ/大阪凌霄クラブ 〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1 大阪駅前第1ビル11階 TEL06-6345-1150 FAX06-6345-1889 URL:http://home.kobe-u.com/osaka/ |
| 東京 | 神戸大学東京凌霄クラブ 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1 帝劇ビル地下2階 TEL03-3211-2916 FAX03-3211-3147 URL:http://home.kobe-u.com/tokyo/ |

六篠会からのお知らせ

神戸大学と同窓生との新たな交流を目指して！

第一回ホームカミングデイの開催

代表理事 中村 直彦（神一回）

神戸大学が、平成16年4月に国立大学法人神戸大学として新たなスタートを切ったことにもない、大学と同窓生との連携をいっそう深めることを目的に、「神戸大学ホームカミングデイ」が、9月30日（土）に神戸大学において開催された。

午前は、本部主催の記念式典、午後からは、それぞれの個性を演出した学部企画の2部構成となった。

午前の記念式典には、名誉教授、各学部の同窓会長のほか、同窓生の代表者ら約300名が参列した。

また、午後からの農学部企画については、兵庫農科大学の第一回卒業生（昭和28年3月卒）、神戸大学農学部の第一回卒業生（昭和45年3月卒）、昭和46年3月卒業生、昭和56年3月卒業生を対象に招待され、約80名が集った。



百年記念館

当日は秋晴れの晴天に恵まれた。百年記念館・六甲ホールで午前11時に式典が始まった。オープニングは、神戸大学マンドリンクラブによって、あの荒川静香が氷上で舞ったプッチーニの「トゥーランドット」の曲で幕が開いた。

まず、野上智行学長から「神戸大学を今日のように立派に育てていただいたのは先輩諸氏のお陰。今も神戸大学人として誇りに思えるように教職員・学生は頑張っている。」と式辞。また、新野幸次郎学友会会長の祝辞では「米国で

「記念式典」

その後、学長からの「神戸大学の現在と未来」と題した基調講演では、「国際的に高い評価を目指すため、大学のお



ホームカミングデイオープニング

は自分たちで大学を創り、運営しているという歴史を持っている。さらに発展させたいという想いからホームカミングデイを催し大学を支援している。」

と同窓生による大学支援の重要性が述べられた。続いて理事及び各学部の部局長の紹介、さらに、学友会会長及び同窓会会長への感謝状の贈呈式が行われた。

評価を目指すため、大学のおかれていく厳しい現在の状況を同窓生には理解していただき、ご支援を願いたい。本日は、初めて交流の場を設けたが、この機会に先輩・後輩・恩師との旧交を温めていただきたい。」と締めくくった。

「農学部企画」

午後からは、学部ごとに趣向を凝らした企画がなされており、農学部はC棟101教

室において独自の交流が行われた。初めに、中村千春農学部長より丁寧な挨拶があり、来賓として六篠会の北浦会長、篠山市長の代理それぞれから祝辞が述べられた。

その後、農学部の動向報告として、①平成18・19年度に実施する学舎の改修、②19年度から実施する大学院の改組、③フィリピン、ベトナム、中国、韓国の教育を支援する海外連携、④地域連携センターでの取り組みなどの説明が行われた。



北浦会長の来賓挨拶

次いで、午前中に執り行われた記念式典の様子が録画放映され、コーヒープレイクを挟んで農学部ブランドの開発について研究成果が発表された。その内容は、今春に発売された日本酒「神戸の香り」、すでに東京・日本橋の三越百貨店で5250円/100gで販売されている「神戸大学ビール」について発表された。さらに、メイクインや男爵イ

モに次いで、将来普及が見込まれるジャガイモ「ジュリンプリンセス」（仮称）のプロジェクトについて熱き期待が語られた。

締めくくりは、「熱帯農学海外演習」と題してタイでの視察研修を行った院生の研究発表、ベトナム留学生ファンさんから「農学部での研究生活」について感想が述べられた。

ピロティで夕刻から始まった懇親会の席では、真山副学長（前農学部長）、中村農学部長をはじめ多くの現役教員、我われ卒業生が教わった丹下宗俊先生、名武昌人先生、高山敏弘先生、竹内龍三先生、豊国永次先生、東順三先生、尾崎毅司先生、西川欣一先生、岩崎照雄先生、新家龍先生、豊澤敬一郎先生、相蘭泰生先生、土田廣信先生、内藤親彦先生、畑武志先生、安田武司先生ら恩師の先生方や、同窓生の面々が、話題の「神戸大学ビール」と「神戸の香り」に舌鼓を打ちながら、古きよき思い出に花を咲かせ、楽しいひと時があつというまに過ぎていった。



懇親会場・西川先生挨拶

なお、他の学部においても各種の企画が実施されたが、工学部では、スカイマークエアラインズ(株)の西久保慎一社長の講演、理学部では、日本

「特別展」

「神戸大学ホームカミングデイ」にあわせて、二つの特別展が同時に開催された。

「神戸大学史展——神大人の青春譜——」は、神戸大学の沿革とともに懐かしの学生生活の様子について歴史を追ってパネルで紹介された。また、「旧三商大・創立70周年記念写真展」は、旧の三つの商大の写真部が70年もの長きにわたり交流が続いており、70周年記念展を開催した。



旧三商大写真展

三商大とは、昭和のはじめ、わが国には神戸商大（現神戸大学）、東京商大（現一橋大学）、大阪商大（現大阪市大）の三校の商大があり、学業のみならず、文化部、運動部といったクラブ活動の交流が盛んに行われ、現在にも引き継がれている。

神戸大学の沿革

神戸大学は、高等商業学校として、わが国で2番目に古い「神戸高等商業学校」（明治25年創立）を起点とし、本年度104年の歴史を刻んでいる。その後、「神戸商業大学」、「神戸経済大学」となり、別に発展してきた「姫路高等学校」、「神戸工業専門学校」、「兵庫師範学校」、「兵庫青年師範学校」などの伝統ある旧制官立学校とが一体となって昭和24年（1949年）に神戸大学が誕生した。

さらに、兵庫県立の「神戸医科大学」、「兵庫農科大学」、「神戸医科大学付属病院」、「厚生女子専門学院」が国立移管され、2003年には「神戸商船大学」と統合し、現在では11学部、9研究科、1研究所、付属病院などを持つ総合大学に発展してきている。また、学生数は19456人、教員・職員数は2900余人となっている。

「終わりに」

近年、国立大学の法人化、本格的な少子高齢化の到来、社会経済情勢の変化に伴う大学経営の厳しさなど、大学を取り巻く環境は大きく変化している。

一方、研究機関としての大学の持つ知的資源を活用しながら、豊かな人間性の醸成や地域経済の活性化を図るべきであるといった社会ニーズが高まってきている。

こうした中であって、大学と地域や産業との連携によって街づくりや地域産業の活性化を図ることが注目されている。

かつては、大学運営に国や企業が口を挟むことは、国家権力の介入、企業との癒着を意味し、大学での学問・研究の自由を脅かすものとしてタブー視されてきた。そのため、我われが学生時代の1960年代後半は、「産学共同——粉砕——」といったスローガンを掲げ大学紛争を巻き起こす構図の一つともなっていた。

しかし、時代は大きく変化した。大学の持つ豊かな人的・知的資源を活かし、大学の社会貢献への期待が大きくなってきているのである。

神戸大学が世界に通用する大学へと飛翔するためにも、また、人類の幸福を探索するために、社会と連携を持ち、

同窓生との交流を深めるなど、多くの情報をたくわえ、その情報を分析・処理する能力を備え、さらにその成果を社会に還元していくことが強く望まれている。同時に、大学を核として同窓生間の連携を強化することによって、情報の共有化、問題処理能力の向上など同窓生相互が研鑽し、発展していくことが重要になってくる。

神戸大学の年間の運営予算は、約570億円。国立大学法人となつて以来、厳しい運営が続いており、来年度からこの予算が1%ずつカットされていくという。神戸大学が今後とも持続的に発展していくためにも、多くの同窓生との連携と、同窓生からの支援が必須不可欠となってくるのである。

今年度、第1回の「神戸大学ホームカミングデー」が開催されたが、来年度以降もこの行事は続けられることになる。そして、ますます同窓生との交流が実現していくことになる。来年度、招待されることになる同窓生諸君は、折角のこの機会をフルに活用して、あの頃の恩師と・あの頃の友と出会い、大いに交流を深めていただきたいと願っている。

研究室紹介

応用動物学

感染症制御学教育研究分野

教授 清水 晃

当研究室は昭和41年の国立移管に伴い、畜産学部の家畜衛生学研究室として再出発しました。その後、平成5年に学部・学科の改組が行われ、応用動物学部の応用免疫学研究室、さらに感染・免疫学研究室と名称が変わり、現在は動物機能調節学大講座に所属し、教育研究分野として感染症制御学を担当しております。教官研究室と実験室は農学部棟ではなく、自然科学研究棟の1号館と2号館にあります。

当研究室では、家畜・家禽・愛玩動物の微生物感染症の防圧を目標として、その原因となる細菌とウイルスの両面から研究を進めております。

細菌関係では、動物やヒトに病原性のあるブドウ球菌について、動物およびヒトを含めた自然環境における存在状況と動物およびヒトの鼻腔、皮膚、腸管などの各部位にどのようなブドウ球菌が生息しているのかという、ブドウ球菌叢の解析を、分子生物学的手法を用いて、生態・疫学的研究を行っています。また、各

おります。さらに各種食品からの黄色ブドウ球菌の培養法と、菌遺伝子および毒素遺伝子の迅速検出法の確立についても取り組んでおります。

ウイルス関係では、ニワトリに腫瘍を引き起こすマレット病ウイルス、またウシに腫瘍を引き起こすウシ白血病ウイルスの感染および腫瘍化におけるアポトーシス関連遺伝子の役割とそれらに対するワクチンの開発研究が行われております。また、細菌（ブドウ球菌）由来染色体DNAによる免疫活性とワクチンへの応用に関する研究も行っております。

当研究室で得られた研究成果は、可能な限り、速やかに、国内外の学術雑誌に公表することで、社会に貢献できるように、学生、院生、教員が一体となって努力しておりますが、まだまだ努力しなければならぬことが多いと思っております。

最近では国内の他研究機関との共同研究を積極的に行っており、またJICA（国際協力機構）からの要請を受け、外国人研修生や企業からの研究生を受け入れて、指導などを行っております。

最後になりましたが、同窓の皆様、当研究室の卒業生の皆様には、今後とも変わらぬご支援、貴重なご意見をいた

だきますよう、よろしく願
い申し上げます。
なお、私事で大変申し訳あ
りませんが、平成19年3月31
日付をもって定年退官いたし

ます。昭和44年4月に赴任し
て以来、長い間大変お世話に
なりました。この場をおかり
しまして、厚く御礼を申し上げ
ます。

食糧生産工学科 生産機械学研究分野

教授 堀尾 尚志

農業動力学講座から30余年
昭和49年に当時農業動力
学講座助手に採用されて以来、
改組に伴い生産計画学教育研
究分野そして現在の生産機械
学教育研究分野と渡り歩いて
きて、定年退職の年を迎えま
した。そのようなわけで、こ
の欄の一般の形式をとらず、
本学部での小生の研究を振り
返ってみようと思います。

その頃はトラクタの自動操
力を増強することができまし
た。

向の研究が盛んでしたが、全
ての研究が既成のトラクタを
用いてのものでした。通常の
前輪かじ取り方式では車体後
部に取り付けられた作業機は
かじ取りの方向と反対方向に
振られるので、作業機を目標
経路に沿わせるのが厄介なの
です。枕地旋回も課題でした。

枕地旋回は、車両の両端に耕
うん装置を取り付ければ必要
でなくなりません。自動操向に
ついては、クラブ・ステアリ
ングすなわち全輪が同一方向
同じ角度にかじ取りをするこ
とにより横方向への平行移動
で進行経路を調整するもので
す。全自動を前提としたシス
テムゆえにできることです。

これは、軌条そのものと支持
柱の構造を改良することによ
り解決できました。また、万
一の滑降に対処するため取り
付けられている遠心ブレーキ
については、ブレーキシュー
の圧力分布を解析しブレーキ

作機を全部自作で作りました。
繰り返し時間を越えたとし
間は400時間を越えたとし
よう。自動制御には、その頃
使われた基板型のコンピ

ュータを使用しましたが、それ
までコンピュータそのものが大
嫌いで否定的ですらあった小
生としては、なんとも皮肉な
ことでした。非線形制御の安
定解析のため文献探索をして
いて、70年代にアメリカの学
会誌に掲載された論文に捏造
を見つけました。ベッセル関
数を参照した図書館の蔵書、
篠山時代に購入されたものです
が、実は海賊版であったこと
も見つけました。なつかしい
思い出です。

の頃、自然科学研究科の福田
秀樹教授のグループが共発現
酵母の開発していました。澱
粉からの一段発酵をしかも効
率よく実現する、まさに現状
をブレイクスルーする技術で
した。当然、次のターゲット
は原料を国内に求められる木
質セルロースです。しかし、

木質セルロースの糖化過程の
問題をブレイクスルーする必
要があります。本棚に置いた
ままの有機化学の教科書を大
学卒業後30年ぶりに開いて研
究をはじめ、ようやく見通し
を得たところで定年の年にな
りました。

取り組んでいます。最近では
宿主植物の寄生植物認識機構
にも大いに関心を寄せていま
す。

生物機能化学科 植物資源利用化学教育研究分野

教授 杉本 幸裕

人間を含めて全ての生物の
生存は、基本的には光合成に
基づく植物の生産活動に依存
しています。そのため、世界
の人口が増加の一途をたどつ
ている今日、植物生産の増大
ならびに植物資源の有効利用
は、きわめて重要な問題とな
っています。植物生産の増大
という点、まず生産ポテンシ
ヤルを高めることが思い浮か
びます。しかし、現実には、
植物は雑草、病原菌、昆虫等
による害のため、自然界で生
産ポテンシャルを十分に発揮
できていないわけではありませ
ん。また、水分や塩類に代表
される環境ストレスに絶えず
さらされています。従って、
これらの生産を阻害する要因
を究明し、抑えることが、結
果として植物生産の増大につ
ながります。

本教育研究分野では、世界
各地で植物生産に甚大な被害
をもたらしている根寄生雑草
の防除に資する研究の推進に
注力しています。我が国では
現在のとこ問題になっていま
ませんが、世界に目を向ける
とアフリカ、ヨーロッパを中
心に根寄生雑草ストライガと
オロバンキが猛威を奮ってい
ます。ストライガはイネ科植
物を、オロバンキはマメ科、
ナス科、キク科等幅広い植物
を宿主とします。近年ではオ
ーストラリアでも問題が深刻
化しており、我が国への侵入
も確認されています。興味深
いことに、根寄生雑草は独立
して生きていけないため宿主
植物が分泌する化学シグナル
(発芽刺激物質) を感受しては
じめて発芽します。私たちは
発芽メカニズムの解明、およ
び、このメカニズムに着目し
た根寄生雑草防除法の開発に

際しては、六篠会よりご後援
いただいておりますこと、こ
の場をお借りして御礼申し上
げます。さらに、国際協力機
構(JICA)からも研修員
を受け入れており、頻繁に外
国人研究者が滞在していると
いう国際色豊かな研究環境を
整えています。



用には欠かせません。この立場から、植物の生産する有用代謝産物の探索、植物の代謝機能の解明や利用法の開発に取り組んでいます。主な研究課題は、植物酵素を利用した糖分の改変、有用植物代謝産物の同定と合成経路の解明、植物のストレス応答機構の解明などです。

寄生植物研究にしても植物代謝研究にしても、個々の問題ごとに最適な方法を用いて実験を進めようとしております。そのため、本教育研究分野では、天然物化学、有機化学、生化学、分子生物学など広範な学問分野で培われてきた様々な手法を用い、植物個体だけでなく細胞や培養組織等も材料としています。

現在、農学部E棟の改修工事が進んでいます。改修後、研究室はこれまでの四階東側から、5階西側に移転いたします。

ます。ほぼ時を同じくして、2007年4月より大学院農学研究科の発足に伴い、教育研究分野名が「植物機能化学」に変わります。本教育研究分野の職員は杉本幸裕(教授)、脇内成昭(助教授)、山内靖雄(助手)に事務補佐員を加えた4名であり、学生は大学院博士後期課程3名、前期課程4名、学部7名が在籍しています。

す。活動状況はホームページ (<http://www.kobe-u.ac.jp/shokusi/>) で公開しておりますので、是非ご覧いただき、ご助言、ご激励賜ればと存じます。併せて、ますます活発に活動を展開していきたいよう、共同研究の立ち上げや大学院入学希望者の紹介など、有益な情報をお寄せいただけましたら幸いです。

植物資源学科 果樹科学教育研究分野

教授 中西 テツ

卒業生の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。久しぶりに研究室から便りをさせていただきます。研究室は現在、野村、高崎の両助教授と私(中西)、博士課程(2名)、修士課程(7名)、学部(5名)の学生が、ナシの生産安定と自家不和性の分子的解明、クオリや熱帯果樹の品質の研究に取り組んでいます。

さて、思い出の多い方もおられることでしょう、一井・沢野、両先生がおられた頃、果樹の研究室ではOB・OGをお招きし、一泊の追コンをしていた時代がありました。

卒業論文発表会のあと、六甲山の摩耶ロジにて、夜景を眺めながら、現役学生、諸先輩、教師が共にひとときを過ごしました。

時が移り、世の中全体がデジタル情報化、ITの時代になって、大学にも様々なシステムが導入されました。大学のホームページには、学部や研究科の概要が掲載され、学生も教員もホームページの閲覧、庶務システムなどにアクセスすることで、授業の履修登録、成績入力、試験や物品の購入、出張手続などをし

ます。学割や証明書は発行機で入手し、連絡、会議通知、催し物の案内はメールで届きます。研究発表や授業にはパワーポイントを用い、また文献も国際誌など主な雑誌の論文は各自のパソコンからダウンロードし、プリントアウトします。IT化はこのようなスピード、利便さ、効率化を押し進め、研究室内では教師も学生も実験以外は、パソコン画面に向かうことが多くなりました。

ここで、研究内容の紹介を離れ、「研究室のコミュニケーション環境」雑感として、IT化の進む大学の様子についてお伝えすることにします。もちろん、果樹のへやは、現在も皆元気で、学び、精力的な活動を続けております。研究の内容については、農学部のホームページをご覧ください。けますようお願いいたします。

しばらく前に研究室に顔を出したOBの話です。営業の経験を積み、初めて新人の指導を担当したところ、「先輩、説明はいいですから、マニュアル下さい」と言われたのだそうです。苦勞した営業のノウハウを、マニュアルとは何事かと、OB氏の憤懣の様子が印象に残りました。

「場のコンセプト」が欠落する、というのがあります。落ちることなので、その責は学生にあるということではありません。

「場のコンセプト」が欠落する、というのがあります。落ちることなので、その責は学生にあるということではありません。

近年の情報革命は、組織と個人の仕事に、広がり可能性をもたらしました。それ故、実社会の仕組み・働きの隅々にネットワークが及ぶことで、自律的な個人による成熟社会を実現する、という期待も持たれます。



10²の頻度で特定の形質(本研究の場合は短稈)で遺伝的にホモ(同質接合体)であるような突然変異体である。(ロ)この突然変異体は自殖することにより、10世代、10年以上も安定して遺伝する。(ハ)他の正常な品種・系統、あるいは通常のメンデル遺伝をする短稈突然変異体との正逆交雑では何れもF1以降変異形質が消失してしまう。(ハ)同様の遺伝様式を示す独立して得られたイネ3品種のエピミュータント間での交配では、あたかも自殖におけるものと同様に短稈形質はエピミュータント集団の中でのみ閉鎖的に安定して遺伝する特性を示しています。



培養細胞系におけるゲノムDNAのメチル化の解析では、植物の脱分化・分化に従ってDNAのメチル化が全DNAのレベルでどのようなように変動するか、イネのプロトクローム由来のカルスやその復原植物体での¹⁴Cのレベルや植物ホルモンやメチル化阻害剤処理による¹⁴Cレベルの変動を調べたところメチル化阻害剤や植物ホルモンなどの処理でも、各処理や個体分化能の有無によって¹⁴Cのレベルに大きな差は見られないが、azacytidine処理では全てのクロームで有意に¹⁴Cのレベルが低下しました。また、種々の処理条件下でカルスからの植物体復原率を調べたところ、azacytidine処理で幾分復原率が低下する結果が得られました。また、培養日数の影響を単一クローム由来のカルスで調べた結果、培養の経過とともに¹⁴Cのレベルが顕著に増加することが明らかとなり、カルスの分化能の低下という一般的な現象との関係が推定されました。しかし、イネのプロトクローム由来のカルスで、分化能と¹⁴C

のレベルが関連しているという可能性を示す明白な結果は認められませんでした。脱分化における遺伝子発現の初期化や修飾制御は、クローム動物などにおける異常個体の出現とも密接に関連しており、動物、植物における共通の現象ともいえます。本研究におけるエピミューテーションは有性生殖でも安定して

遺伝するので、動物におけるインプリンティングや初期化とは異なった機構によるもので新たな遺伝子発現制御機構の解明につながるものと考えられており、イネゲノムシークエンス情報、オリゴマイクロアレイ及びプロテオミクスデータベースを利用して原因遺伝子の同定、発現修飾の分子機構の解析を進めています。

平成17年度 庶務報告

平成18年5月20日(土)に六篠会代議員総会が参加者29名、委任状12名で開催されました。その中で、役員変更の申し出があり、会則に基づき審議した結果、副会長 吉倉 惇一郎氏が退任されました。現在の任期は、役員が平成18年まで、代議員が平成20年までです。

理事(会計/会報) .. 竹中 慎治(神C24)
 理事(会報) .. 相野 公孝(神P12)
 理事(名簿・再掲) .. 武 正興(神C3)
 理事(名簿) .. 菅原 通直(神C4)
 理事(学友会) .. 西川 欣一(兵A1)
 理事(学友会・再掲) .. 北浦 義久(兵A6)
 理事(学友会) .. 王子 善清(兵C12)
 理事(KUC) .. 能宗 康夫(兵C2)
 理事(KUC) .. 石賀 暢一(神C1)
 理事(KUC・再掲) .. 中村 直彦(神Z1)
 理事(大西 成己(鶴3)
 理事(阪上 昭宏(鶴3)
 監事(辻 莊一(兵Z12)

監事.. 外山 眞理(神C9)
 顧問.. 東 順三(兵C1)
 顧問.. 田中 平義(兵C1)
 顧問.. 西川 欣一(兵A1)
 顧問.. 新家 龍(兵C5)
 代議員
 坂本 圭佑(兵C1)
 藤中 勤(兵Z4)
 安尾 勲(鶴2・兵C5)
 財田 福雄(鶴5)
 津田 安啓(兵C8)
 足立 隆昭(兵A9)
 小田垣博三(兵A9)
 酒井 修(兵A9)
 櫻井誠次郎(兵Z10)
 坂井 永利(兵A12)
 谷 俊洋(兵A12)
 池田 吉一(兵A13)
 永吉 照人(兵A13)
 松井 功(兵T16)
 西尾 司(兵Z16)
 塩田悠賀理(兵P17)
 得丸 哲士(神Z2)
 松本 幹夫(神A3)
 矢代 学(神P10)
 門岡 織江(神P17)
 鈴木 武志(神C23)

平成17年度の一般事業として名簿発行、入学者記念品贈呈、会費納入促進、会報発行、各支部活動・学友会・KUC援助、農学部援助、六甲祭援助、六甲山マラソン大会援助、退職教員記念品贈呈、手提袋贈呈、卒業祝賀会援助、慶弔関連などを行いました。また、農学部の学術講演会援助として、生物機能化学科・生物環

慶弔記録

以下の方々がご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)
 野呂 幸生(神A3回)
 宮本 雄一(旧教官・名誉教授)
 吉良 八郎(旧教官・名誉教授)
 新井 瞳(兵C5回)
 内田 直次(現役教授)

退職および着任教員
 退職および着任された先生方をお知らせします。(敬称略)
 定年退職された教員
 内藤 親彦(生物制御学)
 畑 武志(地域環境工学)
 安田 武司(植物機能制御学)
 退職された教員
 千田 廉(動物機能調節学)
 着任された教員
 伊藤 一幸(植物機能制御学)
 井原 一高(バイオシステム工学)
 本多 健
 (附属食資源教育研究センター)
 山崎 将紀
 (附属食資源教育研究センター)
 福田伊津子
 (食の安全・安心科学センター)

六條会 平成18年度一般会計予算

収入の部 (円)

| 項 目 | 18年度予算案(円) | 17年度予算(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|------------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 入会金 | 6,600,000 | 6,600,000 | 0 | 40,000円×165名 |
| 雑収入 | 20 | 20 | 0 | 利息 |
| 前年度からの繰越金 | 2,871,020 | 4,354,656 | -1,483,636 | |
| 合 計 | 9,471,040 | 10,954,676 | -1,483,636 | |

支出の部 (円)

| 項 目 | 18年度予算案(円) | 17年度予算(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 農学部援助費 | 550,000 | 550,000 | 0 | 構内整備等,振込手数料 |
| 一般事業費 | | | | |
| 会報発行費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 年一回(約8,000部) |
| 各種活動援助費 | 700,000 | 700,000 | 0 | 支部活動・学生活動支援 |
| 卒業記念祝賀費 | 350,000 | 600,000 | -250,000 | 祝賀会援助 |
| 名簿買取り | 0 | 2,680,000 | -2,680,000 | 四年一回(2,680×1000冊) |
| 卒業生名簿管理費 | 100,000 | 0 | 100,000 | |
| 代議員総会経費 | 250,000 | 1,000,000 | -750,000 | |
| 一般事務費 | 500,000 | 500,000 | 0 | 事務アルバイト代,郵送料等 |
| 会議費 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 旅費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 慶弔費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 定年退職教員への記念品,電報 |
| 交際費 | 230,000 | 230,000 | 0 | KUC活動等 |
| 褒賞費 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 役員活動費 | 550,000 | 550,000 | 0 | |
| 神戸大学学友会費 | 120,000 | 120,000 | 0 | 年会費,編集委員会費等 |
| 予備費 | 3,371,040 | 1,274,676 | 2,096,364 | |
| 合 計 | 9,471,040 | 10,954,676 | -1,483,636 | |

平成18年度六條会基金予算

収入の部 (円)

| 項 目 | 17年度予算額(円) | 18年度予算額(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|-------------------|-------------------|-----------------|-------------|
| 前年度からの繰越金 | 31,875,498 | 32,091,050 | -215,552 | |
| 雑収入 | 5,000 | 5,000 | 0 | 大口定期・普通預金利息 |
| 合 計 | 31,880,498 | 32,096,050 | -215,552 | |

支出の部 (円)

| 項 目 | 17年度予算額(円) | 18年度予算額(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|-------------------|-------------------|-----------------|-----|
| 学術活動援助費 | 400,000 | 400,000 | 0 | |
| 予備費 | 100,000 | 500,000 | -400,000 | |
| 支出計 | 500,000 | 900,000 | -400,000 | |
| 保留金 | 31,380,498 | 31,196,050 | 184,448 | |
| 合 計 | 31,880,498 | 32,096,050 | -215,552 | |

会員の皆様からの本会への御連絡をFAX、e-mailで受付けております。住所や連絡先の変更、また本会に対する御要望、御意見など御待ちしております。なお、御連絡の際には、所属学科と卒業年次を併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

FAX
078-881-2752
e-mail
rikusou@kobe-u.ac.jp
ホームページ
<http://www.ans.kobe-u.ac.jp/sotugyousei/index.html>

六條会 平成17年度一般会計決算報告書

| | |
|----|-------------|
| 収入 | 10,998,192円 |
| 支出 | 8,127,172円 |
| 残高 | 2,871,020円 |

収入の部 (円)

| 項 目 | 予算額(円) | 決算額(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|-------------------|-------------------|---------------|--------------|
| 入会金 | 6,600,000 | 6,640,000 | 40,000 | 40,000円×166名 |
| 雑収入 | 20 | 3,536 | 3,516 | 名簿販売代金,寄付金 |
| 前年度からの繰越金 | 4,354,656 | 4,354,656 | 0 | |
| 合 計 | 10,954,676 | 10,998,192 | 43,516 | |

支出の部 (円)

| 項 目 | 予算額(円) | 決算額(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|-------------------|-------------------|---------------|-------------------|
| 農学部援助費 | 550,000 | 550,840 | 840 | 構内整備等,振込手数料 |
| 一般事業費 | | | | |
| 会報発行費 | 2,000,000 | 1,662,799 | -337,201 | 年一回(約8,000部) |
| 各種活動援助費 | 700,000 | 362,055 | -337,945 | 支部活動・学生活動支援 |
| 卒業記念祝賀費 | 600,000 | 434,505 | -165,495 | 祝賀会援助,紙袋代 |
| 名簿買取り | 2,680,000 | 2,680,000 | 0 | 四年一回(2,680×1000冊) |
| 総会経費 | 1,000,000 | 756,927 | -243,073 | 総会経費 |
| 一般事務費 | 500,000 | 549,641 | 49,641 | 事務アルバイト代,郵送料等 |
| 会議費 | 300,000 | 168,750 | -131,250 | 理事会 |
| 旅費 | 100,000 | 31,400 | -68,600 | |
| 慶弔費 | 250,000 | 173,095 | -76,905 | 定年退職教員への記念品,電報等 |
| 交際費 | 230,000 | 151,630 | -78,370 | KUC活動等 |
| 褒賞費 | 100,000 | 32,600 | -67,400 | |
| 役員活動費 | 550,000 | 422,510 | -127,490 | |
| 神戸大学学友会費 | 120,000 | 110,420 | -9,580 | 年会費,編集委員会費等 |
| 予備費 | 1,274,676 | 40,000 | -1,234,676 | 入会金返金 |
| 支出合計 | 10,954,676 | 8,127,172 | -2,827,504 | |
| 次年度への繰越金 | 0 | 2,871,020 | 2,871,020 | |
| 合 計 | 10,954,676 | 10,998,192 | 43,516 | |

平成17年度六條会基金決算報告書

| | |
|----|-------------|
| 収入 | 32,095,498円 |
| 支出 | 220,000円 |
| 残高 | 31,875,498円 |

収入の部 (円)

| 項 目 | 予算額(円) | 決算額(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|-------------------|-------------------|-------------|-------------|
| 前年度からの繰越金 | 32,091,050 | 32,091,050 | 0 | |
| 雑収入 | 5,000 | 4,448 | -552 | 大口定期・普通預金利息 |
| 合 計 | 32,096,050 | 32,095,498 | -552 | |

支出の部 (円)

| 項 目 | 予算額(円) | 決算額(円) | 増減(一:減) | 備 考 |
|------------|-------------------|-------------------|-------------|-------------|
| 学術活動援助費 | 400,000 | 220,000 | -180,000 | 20,000円×11件 |
| 予備費 | 500,000 | 0 | -500,000 | |
| 支出計 | 900,000 | 220,000 | -680,000 | |
| 保留金 | 31,196,050 | 31,875,498 | 679,448 | |
| 合 計 | 32,096,050 | 32,095,498 | -552 | |

紙面の内容充実を今後も図っていきたく思います。どんなことでも結構です。エッセイ、コラム、雑文など同窓会事務局の方にお送りください。楽しく、おもしろく、役に立つ紙面を目指して努力していきたいと思っております。また、「こんなことをもつと載せてほしい!」、「この企画はおもしろくないからやめろ!」など、ご意見がございましたら、メールで結構ですので会報担当理事までお申し付けください。2007年が良い年でありませう、また、皆様のご健勝、ご多幸とご活躍を祈念いたします。

編集後記

六條会会員の皆様、ご活躍のこととお喜び申し上げます。会報編集にあたり、多くの同窓生の方々にご協力を頂き、今年も何とか無事に会報を発行することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回からA4版となりました。また、フォントも少し大きくし読みやすくしました。さて、表紙は神戸在住の版画家川西祐三郎氏が1994年製作した版画です。1991年から2004年に作成されました「神戸大学全十八景」の中の作品です。神戸の海をバックにし紫をポイントとした農学部の学舎が美しく描かれております。本年度から学舎の改築が開始されました。川西氏の版画のように美しく、機能の充実した学舎ができあがることを念じております。